2021年（令和3年）
第14号
（9月1日）

# 平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

## 今月のことば　～善い縁を結ぶために～　　乙訓支部会計　松井孝予

「佼成」９月号のお役を頂きました、乙訓支部会計の松井孝予です。よろしくお願い致します。

夏休み前に小学３年生の娘が登校しぶりをして「お母さんに私の気持ちを分かってもらえてない気がする。」と訴えてきました。私は娘の気持ちにより添えてなかったことを反省して、夏休みを楽しく過ごそうと心がけていました。

そんな日々でしたが、読書感想文の宿題が少しずつしか進まずに７日目の事です。今日こそ終わらせてほしい私の気持ちに反して、娘は取り掛かろうとしません。私は「怒る」寸前です。でも、ここで怒りを爆発させたら何の進歩もありません。何としても「怒り」を超えた世界を見たい。と願ってご法話に救いを求めました。

９月号の「善いご縁を結ぶために」というご法話からは、「自己中心の見方をしなければ、何もかもが必要あって出会う有り難い縁」「つい顔をのぞかせる自分勝手な思いに負けないで、出会う人やものごとをいつでも善いご縁にしていくポイントは、そのご縁が何を教えているのかを「学ぶ」姿勢と、そのことで気づいた点を「省みる」ことです。」と教えて頂きました。

そこで私の「怒り」の原因は「後になって慌てて宿題を手伝うのは嫌だ。」という自己中心な見方だときづかせて頂きました。それでも、怒りで波立つ心を８月号のご法話で教えて頂いた「おんにこにこ、はらたつまいぞや、そわか」を念じては、娘を見守っていました。娘は取り掛かってはすぐに休憩をしてなかなか進みません。私は「お母さん」と話しかけられても、素っ気ない対応になってしまいます。

再びご法話を頼ると「柔軟」にこの進言を聞き入れる妙荘厳王のこと、脇祖さまのお言葉「人の気持ちをよくくんでものごとにあたったなら、どんな人とでも円満におつきあいできる。」を教えて頂きました。

私は脇祖さまのお慈悲の深さに感服しつつも、「今の怒りに波立つ心では到底真似できないわ。」「だけど、少しでも近づきたい。」と願いました。そして、数日前に娘に「もっと褒めてよ!褒める所は百個くらいあるよ!」と言われた事を思い出したり、難しい宿題に向き合っている娘の大変さを思うようにしました。すると怒りは鎮まってきました。お陰様で娘と私は小競り合いはあったものの、「怒り爆発」はせずに読書感想文の完成までたどり着けました。

「怒り」を超えた世界は、心が穏やかになって、相手のありのままをスムーズに受け入れられると気付かせて頂きました。

ご法話では「大事なご縁を見逃しているかもしれません。」と結ばれています。この度のお役を頂かなければ、娘との大事なご縁を見逃していたと思います。残りの夏休みも娘と善き縁を結ぶ練習を沢山して、その成果を家庭、社会でも活かして報恩会の月を過ごさせて頂きたいです。有り難うございました。

## あなたのお仕事を教えて下さい　～西京支部　豊田利三さん～

Ｑ：仕事先はどちらですか。
Ａ：シミヅ産業株式会社

Ｑ：どのような仕事内容ですか。
Ａ：製造業の資材関係の卸売り業商社です。
現在は東大阪支店で近畿ブロックを管轄しています。メーカーさんより仕入れ、販社さんへ卸す業務で業界的には中堅問屋の位置付けです。

Ｑ：仕事中に心掛けていることがあれば教えて下さい。
Ａ：その判断が適正か、ご法の線からずれていないかをいつも心掛けています。とは言え自分がご法の線からずれていたら仕方がないですが。会社の皆には商社はメーカーさんと販社さんを繋ぐ接着剤で緩衝材になる様言い続けています。
また笑う門には福来たるで仕事はしんどいものですが、厳しくも明るく楽しい職場を意識しています。これからもご法の線からずれない様、皆様ご指導お願い致します。

**令和３年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。**

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/